

立花宗茂 と闇千代 ドラマプロット

—こんな大河ドラマが見てみたい—
第26話

■文=小山田桐子/榎D&N ■イラスト=大久保ヤマト
※この物語は史実を基に、一部フィクションで作成されています。
【問】市観光課観光推進係 (☎77・8563)

伝習館文庫の蔵書印

市史編さん係 宗章子



①柳河藩洋学校



②柳河師範学校之印



③柳河中学校印



④橘蔭館



⑤福岡県立柳河高等女学校印



⑥福岡県山門郡立柳河高等女学校之印

柳川古文書館は名前のとおり、15万点以上の古文書を収蔵していますが、実は古文書だけではなく、古典籍も数多く収蔵しています。その中心となるのが伝習館高校より寄贈された伝習館文庫です。

伝習館文庫の主な内容は、文政7(1824)年9代藩主立花鑑賢によって創設された藩校伝習館の旧蔵書と、昭和2年に開館した、立花家私設図書館対山館の旧蔵書です。これは、かつて対山館の旧蔵書が流出するのを防ごうと、伝習館高校や同窓会、父母教師会が保存活動に尽力し、郷土文庫として併合したことに由来します。

伝習館高校の図書館で大切に保存されてきたこれらの書籍の蔵書印には、藩校以来のさまざまな校名があります。伝習館文庫は、近代の学校図書館の足跡をとどめる文庫とも言えるでしょう。

蔵書印については、昭和59年の『伝習館文庫蔵書分類総目録』で約76種が既に報告されています。今回は、古文書館で再調査している伝習館文庫の蔵書印をいくつかご紹介しましょう。

①は「柳河藩洋学校」です。これは三ノ丸長久寺にあった洋学校の蔵書印と考えられます。洋学校は藩校伝習館、文武館を経て、明治4年ごろに設立されました。藩校以降では最も古い蔵書印と言えるで

しょう。

②は「柳河師範学校之印」です。柳河師範学校は、明治8年三潞県の教員養成所として設立されました。

③は「柳河中学校印」です。②の師範学校が廃止された後も、併設の中学校は県立柳河中学校として存続しました。

④は「橘蔭館」です。これは、立花家の援助で明治20年に設立された私立尋常中学橘蔭学館の蔵書印と考えられます。橘蔭学館は戦後、高等学校伝習館になります。

⑤は「福岡県立柳河高等女学校印」です。この柳河高等女学校は、明治41年に始まり、昭和24年に男女共学の伝習館高等学校として統合されました。女学校の蔵書印は他にも、柳河高等女学校の前身である⑥の山門郡立柳河高等女学校などが残っています。

昨今では廃棄図書という言葉がまかり通っていますが、伝習館文庫の蔵書印を並べてみると、学校の統廃合を経ても、その教育活動を支えた書物は脈々と次の代へ伝わっていたことがよくわかります。これらの蔵書印からは、かつて伝習館高校の人々が、対山館の史料保存に奔走したような、郷土の歴史史料に対する深い理解と愛情をうかがうことができるのです。



領民たちとの涙の再会
宗茂、ついに旧領を回復する
1620年、柳川領を治めていた田中家が断絶したこともあり、ついに宗茂の柳川再封が決定する。宗茂は関ヶ原の戦いで改易後、旧領を回復したただ一人の武将となった。
菜の花に彩られた筑後平野を、家臣と共に進む宗茂。宗茂の帰りを待ち続けた領民たち

ちが、彼の顔を見るなり、わつと泣き出す。この光景を見ずに亡くなってしまった者たちの顔を思い浮かべる宗茂。
柳川城で宗茂を待っていた懐かしい顔
そこに亡き闇千代が……！
柳川城では城戸知正が宗茂の到着を待っていた。知正は闇千代から預かっていたものだと一幅の絵を渡す。そこには美し

～人物紹介～

宗茂と共に生きた有名武将たち⑦

徳川家光 (1604～1651年)

宗茂を寵愛した第三代将軍。

子どものころから病弱で、戦国時代の武勇



伝にあこがれを抱く。毎日のように宗茂を側近くに呼び、殿中で頭巾をかぶるような不敬も特別に許した。宗茂が側にいると大体機嫌がよい。

く聡明な闇千代の姿があった。懐かしい面影に宗茂は涙をあふれさせる。「今、帰った」宗茂の言葉に、知正も声を殺して泣く。彼女が羽織る胴着に気づいた宗茂は息を飲む。それは、かつて闇千代に預けた、宗茂の胴着だった。宗茂のいない夜、闇千代はこの胴着を羽織り、宗茂を思うこともあったのだろう。そして、宗茂の帰りを待つことができないうの代りに、この絵を描かせたのだ。
宗茂に対する妻としての闇千

県の広報番組「ふくおかインターネットTV」に、立花宗茂と闇千代が登場しました。関ヶ原の戦いに敗れながら旧領再封した唯一の大名として紹介。動画は右のQRコードからご覧ください。



代の深い思い。自分はこの思いに十分報いることができなかった。哀切の情が胸に迫る。

第4章 奇跡の復活劇、立花宗茂という武将がいた！⑦

